



9月1日現在の中山	
世帯数	1,353
人口	3,238
【問い合わせ】 中山公民館報編集委員会 58-5822	

コロナ禍 中山の子どもたちは

中山小学校校長小口先生に聞く



新型「コロナウイルス」との闘いの中、子どもたちの様子、校長としての思いを聞きたいとお尋ねすると「最近メガネが合わなくてこまっっているんですよ。」と言いつつ穏やかな優しさあふれるお顔で答えられました。

子どもたちの様子は

子どもたちは元気です。

4月はすべて、5月は半ばまで休校となり、特に1年生は入学式後2日しか登校できず休みになってしまいました。その内の1日の中で、鉛筆の持ち方、線や丸の書き方を指導しました。それで、すぐに休みになってしまいました。

5月中旬から分散登校が始まり、週に一度課題などの入った「通い袋」を担当と保護者で交換するシステムが市

全体で始まりました。中山小では体育館を使い、距離を保ちながら実施しました。担任と保護者が顔を合わせることを大事にしたかったです。大きな学校ではできないことです。

—休みの分の学力をどう補っていくのか、心配されるところですが

運動会、音楽会の準備等です。いつもは特別時間割りがあるのですが、行事が中止になったのでその分通常授業にまわ

すことができます。8割ほどは回復したと実感しています。

感染予防対策は大変ですか

机は間隔をとり、下校後使用したトイレ・机・椅子・階段の手すりなどを職員が毎日消毒しています。大変な労力です。机と椅子は今後やらなくともよいという指示がきました。運動会は中止としましたが、できることをやっていたということ。「紅白対抗体育大会」をやります。綱引きはできないが、かけっこはできる、密にならない工夫をしてグラウンドいっぱいに広がり、子どもと保護者と職員で実施します。

最後に地域の方に伝えたいことは

保護者の皆さんや、登下校の見守り隊の皆さんはじめ、このコロナ禍の中で

も地域の皆さんにはご理解いただき、学校生活が充実した形で送られていて大変ありがたいです。とても感謝しております。



—ありがとうございました。

終活と樹木葬

最近、テレビや新聞で樹木葬という言葉をよく目にしますが、樹木葬とは一体どんなお墓なのか、普通のお墓とはどう違うのか、中山霊園管理事務所の大久保昌昭所長にお聞きしました。

樹木葬とは墓地に遺骨を埋葬し、その上に樹木を植えて墓標とする古くから存在した埋葬方法です。中山霊園では平成29年度に供用開始となりました。その構造はしだれ桜を墓標とし、周囲の扇形をした芝生面に焼骨を一体ごと直に埋葬するもので、特長は限られた墓地の中で多くの遺骨を埋葬できることです。

この樹木葬が近年注目を集めている背景には、少子化や核家族化に伴い、お墓のことで子ども達に負担をかけたくない、高齢となり墓地の維持管理が困難になったため終活として墓じまいをしたい等と考える人が増えてきたことにあるようです。

樹木葬は後継者を必要としない永代使用であり、一般的なお墓よりも経済的で、生前申請も可能であることから多



くの希望者があるそうです。収容能力は370㎡、960体で、現在184体が埋葬済みです。埋葬がすべて完了した30年後に再整備を行います。

また、霊園管理事務所東側には平成23年度に建立され、次年度に供用開始された合掌風屋根の合葬式墳墓もあり、こちらも永代使用となっています。

「終活の際は是非ご一考ください」とのことでした。



カフェとも

2007年から住宅の一部を改装しカフェとしてオープンしています。

お店では各種ドリンクと最新カラオケを提供しており地域の憩いの場所として親しまれています。

オープン当時は毎日営業していましたが最近では社会情勢や新型コロナウイルスの影響で金曜日の営業に限定して人数もソーシャルディスタンスを考慮した中でのお願いしているとのことです。

オーナーの川上登もさんは、「今の状況が早く収束して皆さんが気兼ねなく飲んだり歌ったりできればいいですね」と話されていました。

尚、要望があれば臨時営業も可能とのことですので相談してみてください。



清水畳店

清水畳店は父親の清水清茂さんが起業して今の清水茂雄さんで2代目です。

作業場は自宅の敷

地内にあり、一人で作業をされています。仕事先は地元の中山をはじめ市内一円に出向くそうです。

最近の住宅は和室が少なくなり畳の需要が減少している状況ですが、畳の良さをPRするために畳のコースターや草履なども作製しているとのことです。



茂雄さんは、この仕事を続けられてきたのは、若いころ地域の様々な行事に参加したおかげで人と人とのつながりがあったからだ、目を細めて言われました。

名所探訪

松の寺の名で知られている金峯山保福寺。このお寺で一番古い建物である山門(一七三二年)をくぐると境内には沢山の歴史のある建築物を見ることが出来ます。

円通閣(観音堂・一七六一一年)には本尊として千手観音が祀られています。方丈(一八〇〇年)には沢山の襖画、壁画、天井画、屏風画などがあり、手前の庭には松の寺と云われる由来である重玉の松と呼ばれる立派な松の木を見ることが出来ます。

しかし、近年の松くい虫の被害には住職も大変心配しており細心の注意をされている様子でした。一番奥にある秋葉堂(一八四〇年)には秋葉権現の木像を安置しており、天井には大変迫力のある龍の画が描かれています。その他にも庫裡(一八四五年)や豊川稲荷の稲荷堂、戦国武将であった小笠原長時の妻子の墓など沢山の建物や石仏などを見ることが出来ます。また、手入れのゆきとどい



重宝の松



山門

た境内には、いたるところに花が咲いており、桜やツツジなど季節を問わず花を楽しむことが出来ます。八月後半取材に伺った時にはサルスベリの木の花が見頃でした。方丈の裏にある滝の流れを型取った庭園も素晴らしく、ぜひツツジの花が咲くころまた訪れたいと思いました。境内以外にも裏山の山桜や壮大な北アルプスなども眺められる金峯山保福寺。皆さんも訪れてみてはいかがでしょうか。

今年は新型コロナウイルスの影響で、納涼祭、運動会、お寺の行事など、諸々が中止になっている。私は、地区の役員をやっているが、残念と思う一方で、正直、この方が楽だ。不謹慎な言い方かもしれないが、そう感じている人は多いと思う。元には戻らない日常に、いかに適応していくか、価値観の転換が求められるのが、アフターコロナの時代ではないか。(T・k)



秋葉堂の天井画